会　　報　≪第487号≫

次代を築くヒューマン・ネットワーク

一般社団法人兵庫県建築会

令和8年 11月1日

目　　次

Ⅰ　月例会（第５４３回月例会）

「　チャレンジする企業を応援する

～ひょうご産業活性化センターの取組～　　」

（公財）ひょうご産業活性化センター

常務理事　　円増　万司　氏　　・・・２頁～５頁

Ⅱ　会員情報提供（第５４２回月例会）

「　久保田セメント工業株式会社ＰＲ　」

久保田セメント工業株式会社　冨士誉志夫・井上雄太　氏・・・６頁～８頁

Ⅲ　研修交流会の開催　　・・・９頁

Ⅳ　お知らせ　行事予定　編集後記　　・・・９頁



Ⅰ　第５４３回月例会

「　チャレンジする企業を応援する　～ひょうご産業活性化センターの取組　～　」

（公財）ひょうご産業活性化センター　円増　万司　氏

【会　長　挨　拶】



会員の皆さま、こんにちは。

9 月にはシルバーウイークの５連休がありましたが、残念ながら全国的に雨の日が多く、各地で豪雨災害が発生しました。兵庫県でも晴れの日は少なく、うっとうしい日々が続きました。これからは天気が安定し、10 月らしい過ごしやすい季節になります。お仕事に、また、余暇活動にご活躍されることを祈念しております。

さて、本日の月例会では公益財団法人　ひょうご産業活性化センターより円増万司常務理事をお迎えし、「チャレンジする企業を応援する～ひょうご産業活性化センターの取組～」についてご講演して頂きます。

講演概要に記された通り、企業を取り巻く環境変化は著しく変化し、今日の金利のある世界での経営は予断を許さない状況と考えています。

当会は、2 月の月例会で「壊れつつある世界秩序と日本の安全保障」について、国際社会での日本の立ち位置を学び、９月の月例会では「金利と為替で紐解く世界の金融センター」について、為替、金利、それぞれのメカニズムを学び、経営基盤について理解を深める月例会を開催しました。

本日は、経済・経営分野の第 3 弾として、企業が成長するには人・物への投資が欠かせません。特に、建築産業では担い手不足からフィジカル AI やドローンへの投資が欠かせない時代を迎えています。その時々に有利な条件での資機材の購入や、他社より先んじてシステム構築することが企業の成長に大いに貢献すると思います。

本日の講演を参考にして頂き、会員企業の今後の成長戦略に役立てて頂ければ幸いです。
どうぞよろしくお願い申し上げます。



会場風景１



会場風景２

チャレンジする企業を応援する

～ひょうご産業活性化センターの取組～



Ⅰ 本県経済・雇用の状況

１．経済の規模

本県の経済規模について、人口は 533 万 7,000 人、県内総生産は 23 兆 9,900 億円となっています。人口のシェアは 4.3％で、主要経済指標の各々の項目で 4%程度のシェアを占めています。全国順位は 7 位前後ですが、特筆すべきは、製造品出荷額等が全国 5 位ということで、他の指標に比べて非常に高い順位になっています。

２．県経済の産業構成

1990 年から 2023 年にかけての産業構成を見ると、全国と同じように兵庫県も第 3 次産業のウェイトが 59.2%から 67.8%へと拡大する一方で、製造業を含む第 2 次産業の割合は 27.4％で、全国の 19.5%に比べて非常に高いウェイトを示しています。こういうことから見ても、兵庫県はものづくり県ということが見てとれると思います。ただし、鉱業・建設業のシェアはかなり少なくなってきています。



Ⅱ 最近の経済・雇用情勢

１．経済・雇用情勢の推移

県内総生産（ＧＤＰ）は、コロナ禍のときに落ち込んだ後、回復し、横ばいで推移しており、生産状況は維持できています。業況判断も、コロナのときに落ち込んだ後、上昇してプラスとなっており、景況が良好な状況を維持しています。先行きについては、中東情勢が不透明な時に落ち込みましたが、今のところ大きなダメージはなかったと見ています。

消費者物価は、令和３年から上昇し、3%前後で高止まりしています。物価高は、家計の購買力を下押しし、中小企業のコスト増にもつながるため、県内経済にとってマイナス要因となり、しっかりと注視しておく必要があります。

商業販売は、令和７年度は全体の販売額がほぼ横ばいとなっています。物価が上がり、買い控えや節約志向が高まっていますが、百貨店やドラッグストアなどが全体的にプラスとなり、販売を維持しており、非常に底堅い状況にあると見ています。

神戸港の輸出額も非常に高い水準を維持しており、貿易は総じて堅調な動きをしています。

設備投資は、令和７年度が 9.0%で、非製造業が大幅に伸びました。今年度の設備計画も 6.1%となっており、引き続き積極的な投資姿勢が見てとれます。鉱工業生産指数も、機械や電気機器などの生産動向は安定しており、横ばいで、今のところ悪化要因は見てとれない状況です。

全産業の雇用人員判断ＤＩは、ずっとマイナスとなっており人手不足感が年々強まっています。特に、中小企業の人手不足感は顕著で、非常に厳しい状況であり、先行きも非常に不安を抱えています。非製造業は、製造業よりも人手不足感が強く、サービス業などの対人サービス分野で深刻な人手不足となっています。

倒産は、令和７年度で 630 件対前年比 10.3%の増加となっています。足元の数値もやや高い状況であり、中東情勢の影響がある企業などについては、注視していく必要があります。

先日、南あわじ市にある淡路瓦製造業の朝日窯業、７年前にも淡路瓦大手の近畿セラミックスが倒産しました。東日本大震災や熊本地震などの影響で消費者の屋根瓦離れが進み、生産量はピーク時の二十分の一に落ち込んでいます。多くの雇用を抱えている地場産業がどういう形で生き残っていくのかは非常に難しい問題であり、重要な課題となっています。

こうした状況を踏まえ、県では 2027 年度までの計画として「ひょうご経済・雇用戦略」を策定しています。３つの方向性として、兵庫を牽引する新たな産業の創出、中小企業の経営基盤の強化持続的な発展、地域経済を支える人材の育成確保を掲げ、この３つの柱を基に９つのプロジェクトを展開して事業を行っています。

Ⅲ 経営基盤の強化

１．労働生産性の向上

兵庫県の人口は、2009 年の 560 万人をピークに減少し、2050 年には 423 万人になるという予測になっています。生産年齢人口も、1995 年の 375 万人から減少し、209.7 万人ぐらいになると見込まれており、率でいけば半分以下になる見通しです。

ＯＥＣＤ加盟諸国の労働生産性では、日本は 32 位で、非常に遅れています。大企業の労働生産性は上がっている一方、中小企業のほうは横ばいで、あまり進んでいません。今後、原材料や人件費が上昇していく中で、中小企業が経済環境の変化に立ち向かうには労働生産性を上げる必要があります。

兵庫県は製造業のウェイトが高く、製造業の労働生産性を上げることによって、全体の大きな引き上げ効果も期待できるため、製造業を中心とした対策に取り組んでいます。製造業以外にも卸・小売、医療・福祉、宿泊・飲食などは労働集約型の産業で、人手が必要となるため、生産性の向上が課題です。

労働生産性を向上するには、付加価値を高めるか、労働投入量を最適化するか、２つの視点からの取組が必要です。単に労働投入量を少なくしすぎると、生産性は高く算出されますが、人手不足の状態で供給制約となり、企業の発展にはマイナス成長になるため、労働投入量の最適化が大事になります。

ＤＸ（デジタルトランスフォメーション）による生産性向上については、ものづくり支援センターなどで、企業が抱えているボトルネックの箇所を洗い出し、効率的な仕組みを支援しています。作業環境の改善、職場づくりの改善、自動化やＩｏＴなどによって効率化が図られています。導入にはコストがかかることや、作業できる人がいないことが課題となっていますが、中小企業でも人工知能の関係など、積極的に設備投資に取り組んでいます。

ものづくり支援センターでは、相談を受けた企業を訪問し、課題整理や問題の洗い出しを行い、計画書をつくって生産性向上に取り組み、定期的にフォローする支援を行っています。事例として、歯ブラシの詰め合わせ工場では、専用の機械と荷台のロボットを導入し、箱詰め作業の人員を 6 名から 1 名に減らすことができました。また、硬さ測定の自動判定では、人が目視で行っていた作業を機械に任せることで、正確性と時間短縮につながりました。

また、ものづくり人材は減少しており、工業高校の卒業生も年間 12 万人（1960 年代）ぐらいから今は 6 万人ぐらいに半減しています。ある程度の知識を持った技術者の確保が難しい中、文系や事務の人も新しいものにチャレンジし、リスキリング、学び直しによって、ほかの業務に対応できるようにしていくことも必要ではないかと思っています。



２．事業承継

後継者不在の企業が半分あり、身内がいない、子供がいない、子供が継がないなど後継者難を理由とした廃業が３割になっています。

後継者不在による廃業が増える中、事業承継の傾向として、2023 年までは親族承継が多かったのですが、2024 年は従業員承継が増えて逆転しています。

事業承継の成功例として、香美町の水産加工業者が豊岡の温泉宿を引き継いで事業を行い、成功している事例があります。県では、事業承継を行う際に、建物改修費や広告宣伝費などを補助しています。神戸商工会議所の中にある「兵庫県事業承継・引継ぎ支援センター」で、個別相談を受け付けています。

３．人材の確保

外国人労働者は、直近５年間で 50%増加し、4 万人余りから 6.6 万人となっています。国別ではベトナムが最も多く、中国、ネパールと続いています。在留資格では、特定技能などの専門的・技術的分野が３割ぐらいとなっています。県では、ベトナムに行って直接大学で求人活動を実施したり、外国人の人が安心して働けるように、環境が整った企業を認定する「ひょうごグローバル人材活用企業認定制度」に取り組んでいます。外国人の採用・定着に取り組むことを宣言しキャリア支援制度などの環境が整えば認定企業となります。安心して働ける企業であることを一つのアピール材料としての活用をお願いします。

また、東京等県外からの転職者の人材を集める取組も行っています。テレビコマーシャルでよく見かける人材紹介会社のエージェントは年収の 30%から 50%ほどの費用がかかり、中小企業が手を出せない状況もあります。

高額な民間エージェントに頼らずとも、県では、ひょうご移住・しごとプラザ（東京都内）や社員の負担なしで会社が３分の１、県が３分の２を負担して奨学金を返済する奨学金返済支援制度も用意し、人材確保を支援しています。

最後に、ひょうご産業活性化センターの「よろず支援拠点」では、県内の各種支援機関ともネットワークができており、経営のあらゆる悩みにワンストップでお応えしています。何か困ったことがあれば気軽に電話をしていただければと思います。

チャレンジする企業とは、新しい商売を始めるとか、違う部分に進出する企業だけではなく、今抱えている現状を少しでも良くしようと意欲を持って一歩を踏み出す企業です。そういう皆さんの思いを一緒になって解決し、地域経済を一緒に盛り上げていけたらと思っています。本日は、以上で終わらせていただきます。



（お礼　岡副会長）



本日は役に立つお話をありがとうございました。弊社でも、手前味噌ですがベトナム人の正社員を３名雇用しております。お世話する人員のキャパもありますので、これ以上増やすのは弊社の場合は難しいところがございます。建設業共通ではありますが、円安基調と資材の高騰で、それが継続して価格転嫁が追いつかないという現状がございます。

今日は円増先生のお名前にあやかりまして、円安を食い止め、これ以上円安が続かない、強く豊かな日本がまた来るということを想起しながら日々精進してまいりたいと思います。

Ⅱ　会員情報提供（第 542 回月例会）

「　久保田セメント工業株式会社 PR　　」

久保田セメント工業株式会社　冨士誉志夫・井上雄太　氏



（発表者）
久保田セメント工業(株) 課長代理 冨士誉志夫氏
同　　課長　　井上　雄太氏

１．会社概要

久保田セメント工業株式会社は 1906 年創業、1958 年設立で、今年で 120 年目の会社である。神戸市中央区のポートアイランドに本社を構え、兵庫県小野市の製造工場を中心に、近畿中京エリアを幅広く営業拠点と配送センターで網羅している。

事業内容は、建築用コンクリートブロックをはじめ、インターロッキングブロックや型枠ブロックの製造、販売、施工までトータルに行っている。国交省や地方自治体、ゼネコン、ハウスメーカー、地元の工務店など、多岐にわたるお客様との付き合いがある。

ルーツは 1906 年に久保田組として創業したところまで遡る。当時は宝塚大劇場や甲子園球場など左官業として携わり、1964 年の東京オリンピックの年にコンクリートブロックの生産を開始した。1995 年阪神淡路大震災を経て今日までまちづくりの歩みとともに進めている。

兵庫県、神戸市を中心に、近年では神戸空港や東遊園地、さらに 2025 年の大阪万博関連など、都市のシンボルとなるような場所で製品が数多く採用され、そのときそのときの時代のニーズに応じた現場の下支えをしている。

２．Kubota 製品紹介

一般的なコンクリートブロック、景観の色彩を彩る化粧ブロック、歩道や広場など足元に機能や華やかさを与えるインターロッキングブロックなど、幅広いバリエーションを製造している。スタイリッシュな形状と空間を演出するブーム、意匠性に優れた大理石の化粧ブロックマーフィル、土留めの建築用ブロック型枠ブロック、兵庫県の県民まちなみ緑化事業などでも活用できる緑化ブロックを製造している。また、スリット型の平板では、スリットの光の陰影を生み出し、和洋を合わせたデザインが取れるハートランドペイブなどがある。

３．施工現場紹介

神戸のメリケンパークでは、1 万平米という広大な面積に製品が採用され、CAD によるデザイン提案の錨マークも「BE KOBE」と合わせて有名なオブジェクトとなっている。

三宮の都市公園である東遊園地では、暑さ対策として遮熱ブロック、クールスポットテーブルが採用され、夏のイベント時でも快適な空間を提供している。

西神中央駅前のプレンティー広場では、クールスポットペイブを、石畳の雰囲気を踏襲し、グレー色の製品を加工の仕上げや形状、サイズを変え、合計 9 種類の平板を組み合わせて完成させている。



2025 年春に完成したジーライオンアリーナ神戸前の突堤パークでは、特注のグレー色の明るめから濃いめの 5 色で打ち寄せる波しぶきをデザインし、ウォーターフロントエリアの新しいスポットとしてアリーナ前を引き立てている。

神戸空港のサブターミナルでは、淡路の五色を種石として使用し、地産地消コンセプトの平板を製作している。

マリンピア神戸では、1 万平米以上の土地をアクティビティゾーンなどコンセプトに基づきゾーニングし、エリアごとに自然なグラデーションが空間から空間へ連続性を持たせるよう設計から携わっている。

垂水駅エリアでは、エリア単位で人々が滞留する空間に遮熱舗装を提案し、採用されている。

宝塚ホテル跡地のマンションでは、南北に配置されたマンションをつなぐ広いオープンスペース、公開空地について、宝塚の風格と当時のホテルの名残を残しつつ、特注で柔らかい色合いの製品を納入している。

阪神尼崎駅前の中央公園はリニューアルに伴い尼崎セントラルパークと改名され、雰囲気も一新し、新たなにぎわいが生まれている。国交省でも推薦されているまちなかウォーカブル事業の一環で整備された事例である。

明石市役所前の中崎展望広場では、レンガ調の製品をインターロッキングで再現し、素朴でありながら趣のある空間を演出している。

姫路のモントレホテルでは、姫路駅前の石畳のデザインを踏襲し、天然骨材を配合した硬質な舗装材を採用している。シンプルなデザインでありながら建物を引き立て、ホテル前の人の流れをつくり出している。

太子町役場の「太子の環」では、来客用駐車場に緑化のブラスキーパーを施工し、緑化の駐車場をつくっている。

大阪万博関連では、西ゲート、東ゲート、コロンビア館などに携わり、ガンダムのパビリオンでは、世界観を損ねないよう様々な舗装材を検討し特注色の舗装材を採用している。設計から完成までデザインと修正に携わっている。



このように兵庫県下を中心に人々が集い、暮らしを紡ぐ様々なシーンに、賑わいや回遊性をつくり出す空間として、製品を数多く採用している。

４．Kubota の新技術



暑熱対策舗装として、アクティブウォーターペイブを開発している。暑熱対策として保水性インターロッキングブロックがあるが、保水性インターが水をブロック内に多く保持することを重視するのに対し、アクティブウォーターペイブは水の保持だけでなく、ブロック内の水の動きに注目した製品である。ブロック内部に取り込まれた水分が移動しやすい水道をつくることで蒸散を持続させ、路盤側の水分を引き上げる性能も向上させている。従来の保水性以上の温度低減効果を期待できる暑熱対策ブロックである。

実験では、従来の保水性ブロックに比べてアクティブウォーターペイブの吸い上げが早く、これによりブロック表面の湿潤状態が持続し、長時間の路面温度低減が可能となる。



5．Kubota の環境への取組

環境への取り組みとして、アーバンループを進めている。アーバンループは、再生骨材と産業副産物を活用した低炭素配合によって、資源循環とCO_2削減を実現している。

再生骨材の原料となるコンクリート殻は、これまでほとんどが再生路盤材として消費されてきたが、需要が減少し、産廃業者の置き場に山積みになっている。国交省からも建設廃棄物のリサイクル推進の方針が出ており、再生コンクリートとして再利用する取り組みが進められている。コンクリート殻を再びコンクリート用骨材として使用するため、無駄な輸送を抑える材料の地産地消にこだわり、主に兵庫県南東部で出たコンクリート殻を回収し、神戸市内で JIS 規格に適合する再生骨材として蘇らせ、再び製品の材料として使用して資源循環を行っている。

再生骨材には、規格が厳しい順に H、M、L の 3 種類がある。H はほぼ完璧に処理され、バージン骨材に近い状態だが、高温で加熱するため加工中に大量のCO_2が発生する。

M は H ほどではないもののほぼ綺麗に処理され、加熱しなくても JIS 規格に適合できるため、無駄なCO_2を発生させず、コンクリートブロックに使用できる。

L は砕いただけで、基本的には捨てコン用として使用される。久保田セメント工業株式会社では M の再生骨材を使用している。

低炭素コンクリートでは、国交省の基準としてセメントを質量割合で 55%以上をほかの結合材と置換することにより、約 50%のCO_2削減が可能である。そこで、製鉄の副産物である高炉スラグ微粉末と石炭火力発電の副産物であるフライアッシュを活用し、セメント置換率 62%を達成している。さらに、製品養生時のボイラーによる蒸気養生を削減することにより、CO_2を従来の約 59%削減している。冬場の低気温時においても問題なく強度発現できることを確認し、低炭素コンクリートの課題であった養生期間の問題もクリアしている。

今年 4 月より、この低炭素コンクリート配合と再生骨材を使用したインターロッキングブロックの生産及び販売を開始している。取り組みを可視化するため、製品のライフサイクル全体で排出されたCO_2排出量の指標であるカーボンフットプリントを算定し、データシートを発行する。カーボンフットプリントは、今後建築物の LCA 算定において必須となるもので、グリーン購入法にも対応している。

今後は、プロジェクト内で発生するコンクリート殻を同プロジェクト内で再利用する循環型都市整備を目標としている。



Ⅲ　第１７２回　研修交流会の開催

第 172 回研修交流会が 11 名の方々の参加により開催されました。

（集合写真）



日　時：　令和８年 10 月 28 日(水)9 時～
場　所：　城山ゴルフ倶楽部（加古川市）
優　勝：杣田　健一　氏（株）森長組
準優勝：原　　広行　氏（株）森長組
第３位：山本康一郎　氏（株）山本設計
Ｂ･Ｂ賞：鷲尾　裕一氏（株）明和工務店
（城山賞）
ドラコン賞：杣田　健一　氏(株)森長組 2
ニアピン賞：　原　　広行　氏(株)森長組
　　佐伯　元彦　氏 久保田ｾﾒﾝﾄ工業（株）

Ⅳ　お 知 ら せ

◎行事予定

1　視察会

日　時：令和８年１１月９日（月）
　　１３：３０～１５：３０
場　所：兵庫県立工業技術センター

2 事業推進委員会

日　時：令和８年１２月９日（水）
　　１７：１５～１９：１５
場　所：梅の花

3　新春交流会（予定）

日　時：令和９年１月７日（木）
　　１７：００～１９：００
場　所：神戸三宮東急 REI ホテル

◎編集後記

当会専務理事に就任して早いもので１年が経ちました（令和７年１１月１日付）。
総会、会員交流会といった大きな行事の他、月例会、研修交流会、事業推進委員会に加え、会報の編集の他、役員会や理事会、県など行政機関からの業務など業務の幅広さと責任の重さを感じました。
慣れて行くところはありますが、まだまだ行き届かないところもあろうかと思います。今後とも、ご指導のほどどうぞよろしくお願いいたします。

事務局：足達和則　石井滝実子
電　話：078(996)2851
FAX:　078(996)2852
e-mail:　archit-k@axel.ocn.ne.jp

